毎日新聞　２０１６年１月１６日掲載

東京都市大

200人が豪州留学

TAP 5カ月「英語漬け」生活

東京都市大は15日、横浜キャンパス（横浜市都筑区）で、今年度から始まった「東京都市大オーストラリアプログラム（TAP）」に参加する学生の壮行会を行った。約200人が5カ月にわたって豪州の大学で語学、教養科目を学ぶ内容で、大学が主導する留学のプログラムとしては全国最大規模という。

横浜キャンパスで開かれた壮行会には多くの学生が出席した＝横浜市都筑区で

TAPは国際人材育成プログラムで、参加者は豪州西部にあるエディスコーワン大（ECU）に留学し、現地の学生や他国の留学生とともに語学を学ぶほか、英語による国際関係論やメディア論などの講義に出席する。大学は費用の一部を補助したり、奨学金の制度をつくったりして学生をサポートする。

参加者はECUの学生寮に入り、他国の留学生とルームメートとなって「英語漬け」の生活を送ることになる。三木千壽学長は「国際人は英語が話せることが基本で次に話す中身が問われる。世界のどこでも活躍できる人材を育てたい」と語る。

壮行会に出席したブルース・ミラー駐日豪州大使は「価値観の多様性を感じ、視野を広げてほしい」とエールを送った。

TAPへの参加を目的に入学した学生は少なくない。メディア情報学部1年の奥村真帆さん(19)は「将来は海外で働き、日本と外国の懸け橋になりたい」と意気込む。都市生活学部1年の福田有沙さん(19)は「英語を学んで外国人の友人を増やし、世界中を旅してみたい」と夢を語った。

第1陣の122人は2月に出国し、6月に帰国する。第2陣の84人は8月から12月にかけて留学する予定。

【水戸健一】

■この記事・写真等は毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会